

プログラムに寄せて

「歌とピアノで描く シューベルティアーデの友人たち」にご来場いただき、ありがとうございます。本日のプログラムについて紹介します。

フランツ・シューベルト(1797-1828)は誰かが「歌曲の王」と呼んでしまったのですが、本人は恐らく「僕は歌曲作曲家ではない」と言うはずです。この点については本日のピアニストの長尾氏も「シューベルトが 1 曲の歌曲も遺さなかったとしても大作曲家の名に十分ふさわしい」とかつてのリサイタルのプログラムノートに書いています。しかし、やはりシューベルトの歌曲は 600 曲を越え、その数は群を抜いているばかりではなく、その親しみやすい旋律からも多くの人に愛されていることは間違いありません。

そして、自身は大したマネージメント力もなかったシューベルトがこれほど多くの名曲を遺せたのは、友人の尽力が大変大きかったのです。最初は学校の放課後の自発的な部活動のような集いが、シューベルティアーデとして半ば結社のような装いを帯び、この稀有な才能を持った作曲家にとっては宝物のような存在になりました。シューベルトが次から次に作曲すると、仲間たちがすぐに演奏してみて、「すごい！」とか「この曲は未来を示している！」とか言って盛り上がっていたはずです。その中に、今日演奏する歌曲の詩人（プロもアマチュアも）がいて、シューベルトは好んで彼らの詩に曲を付けたのでした。

私は昨年 12 月、ここプリモ芸術工房で長尾氏と「歌とピアノで描く シューベルトの《憧れ》」という演奏会を行いました。その折にこの空間がシューベルトの音楽を嬉々として聞く若者たちの光景と重なるように感じられたことが、この第 2 弾のテーマを決めるきっかけです。ショーバーの An die Musik 「楽に寄す」で語られるように、「音楽が僕に新しい時代の空を開いた」と感じた青年の想いが今日のプログラムの随所に現れているので、もはやベテランと呼ばれるようになってしまった女声歌手としては、まるで息子たちの興奮を微笑ましく見ているようでもあり、それを実際に歌声に乗せると、こちらも気持ちが高まるようです。

無事にプログラム最終曲まで行きましたら、アンコールはできれば皆様にシューベルティアーデの一員としてのご参加をお願いしたく、楽譜を付けてあります。アンコールを今から言うってしまうのは変なのですが、どうぞ少しだけ歌に参加してください。

では、お楽しみいただけますように。

加納悦子

バウエルンフェルト(1802-90)、シュタドラー(1794-1888)、ゼン(1795-1758)の詩による歌曲

シューベルト晩年の朋友・劇作家バウエルンフェルトはオペラ《グライヒェン伯爵》の台本もシューベルトのために書きました(オペラは未完)。こちらはシェークスピアの戯曲《二人の紳士》ドイツ語訳の劇中歌。

An Silvia

Eduard von Bauernfeld

William Shakespeare "Two Gentlemen of Verona"

シルヴィアに

バウエルンフェルト

シェイクスピア「ヴェローナの二紳士」から

Was ist Silvia, saget an,
Daß sie die weite Flur preist?
Schön und zart seh ich sie nahn,
Auf Himmelsgunst und Spur weist,
Daß ihr alles untertan.

シルヴィアは何者か言ってくれ
街中が彼女を讃えるというのは?
近づけば美しく優しく
天恵と証拠に示されている
全てが彼女にひれ伏すと。

Ist sie schön und gut dazu?
Reiz labt wie milde Kindheit;
Ihrem Aug' eilt Amor zu,
Dort heilt er seine Blindheit
Und verweilt in süßer Ruh.

彼女は美しくそれに善良なのか?
魅力が幼児のように楽しませる
つまり、愛の神が彼女の瞳に急ぎ
その盲目を癒し
甘い憩いの中で寛ぐのだ。

Darum Silvia, tön, o Sang,
Der holden Silvia Ehren;
Jeden Reiz besiegt sie lang,
Den Erde kann gewähren:
Kränze ihr und Saitenklang!

だからシルヴィアに響かせよ、おお歌を
優しいシルヴィアを讃えるのだ
彼女がどの魅力より永く勝れと
それはこの地上が彼女に与えたのだ
花環と弦の響きを彼女に!

この詩は1825年のバウエルンフェルトの詩集に収められていますが、シューベルトは発表前の原稿を見せてもらって作曲をしたと言われています。ゆったりした揺れのリズムに乗せて、父から幼子への想いが歌われます。

Der Vater mit den Kinde

Eduard von Bauernfeld

父と子

バウエルンフェルト

Dem Vater liegt das Kind im Arm,
Es ruht so wohl, es ruht so warm,
es lächelt süß: lieb'Vater mein,
Und mit dem Lächeln schläft es ein.

父の腕に子供が抱かれて
心地良く温かく休み
「僕の愛するお父さん」と可愛く微笑んで
笑顔で眠っている。

Der Vater beugt sich, athmet kaum,
Und lauscht auf seines Kindes Traum:
Er denkt an die entschwundene Zeit
Mit wehmutsvoller Seligkeit.

父は屈みこんで、息を鎮める
そして子供の夢を覗いてみる
彼は過去を想っている
心を痛めながらも幸せだった時を。

Und eine Thrän'aus Herzensgrund
Fällt ihm auf seines Kindes Mund,
Schnell küsst er ihm die Thräne ab
Und wiegt es leise auf und ab.

心の底から涙が一粒
子供の唇に落ち
父は素早く口で拭う
そして静かに上下に揺すなのだ。

Um einer ganzen Welt Gewinn,
Gäb'er das Herzenskind nicht hin.
Du Seliger schon in der Welt,
Der so sein Glück in Armen hält!

世界の全ての財産にも
この大切な子は渡さない。
お前はもうこの世の幸せ者だ
その幸せを腕に抱けるのだから。

寄宿制学校コンヴィクト時代の学友シュタドラーの詩による家庭儀式用の曲。
知人ヨーゼフ・コーラーの名前に因んで聖ヨーゼフを偲ぶ日のために作曲されました。
前奏の華やかなアルペジオのあと、リラックスした雰囲気でお祝いの歌が続きます。

Namenstagslied

Albert Stadler

聖名祝日の歌

シュタドラー

Vater, schenk' mir diese Stunde,
Hör' ein Lied aus meinem Munde!
Dir verdank' ich das Gelingen
Meine Wünsche heut' zu singen,
Denn du hast mit güt'ger Hand
Mir den Weg dazu gebahnt.

お父様、私にこの時間をくださったなら
この歌をお聴きください！
あなたにこの成就を感謝します
私の希望を今日歌うということに。
なぜならあなたは良き手で
私にその道を敷かれました。

O, lass diese Hand mich küssen!
Sieh' des Dankes Thräne fließen!
Denn sie hat mir mehr gegeben
Als Gesang: ein schönes Leben;
Und mit kindlich frohem Blick
Dank' ich ihr des Lebens Glück.

おお、この手に口づけをさせてください！
感涙が流れるのが見えるでしょう！
なぜならその手は歌以上のことを私に与えたのです
それは、素晴らしい人生です
子どもらしい喜びの眼差しで
人生の幸せをその手に感謝します。

Himmel, sende deinen Segen
Dem verehrten Mann entgegen!
Strahle ihm, des Glückes Sonne!
Schäum' ihm über Kelch der Wonne!
Und vom Blumen voll der Pracht
Sei ein Kranz ihm dargebracht.

天よ、あなたの祝福を
この偉大な男性に贈ってください！
輝く太陽は彼を照らしてください！
喜びの盃に泡を立ててください！
そしてきらきらした花々が
彼の冠となるでしょう。

Diese Kranz in deinen Haaren
Möge Gott uns stets bewahren,
Und ich fleh's mit nassen Blicken:
Noch ein zweiter soll dich schmücken,
Blau und golden, denn hier spricht
Jeder Mund: Vergiss mein nicht!

この冠をあなたの髪の中で
神が常にお見守りくださいますように
そして私は濡れた眼で祈ります
二つ目があなたを飾りますようにと
青と金、なぜならここでは
皆が言ってるからです。
「私を忘れないで」（勿忘草）と。

やはりコンヴィクト時代の学友の詩人ゼンは反政府活動をしていて1820年に逮捕されて14ヶ月拘禁のうえ
ティロルに追放となりました。その地を訪ねた友人たちが持ち帰った詩の一つがこの「幸福の世界」。
幸福の島(ユートピア)を求めて揚々と小舟を手繰る青年の志を歌っています。

Selige Welt

Johann Senn

幸福の世界

ゼン

Ich treibe auf des Lebens Meer,
Ich sitze gemut in meinem Kahn,
Nicht Ziel, noch Steuer, hin und her,
Wie die Strömung reißt, wie die Winde gehn.

僕は人生の海に漕ぎ出す
自分の船に気ままに乗っているのだ
目的も無く、舵も取らず、あちらこちら
流れに任せ、風のままに。

Eine selige Insel sucht der Wahn,
Doch eine ist es nicht.
Du lande gläubig überall an,
Wo sich Wasser an Erde bricht.

夢は一つの島を探すか
一つだけではない。
君が信じて船をつけるところ
水が大地に砕けるところならば。

マイルホーファー(1787-1836)の詩による歌曲

シューベルト・アデーの詩人の中で量と質において最も際立っているマイルホーファーは、シューベルトの才能に惚れこみ、二人は強い友情で結ばれ二年間同居もしましたが、理想主義&悲観論者のマイルホーファーと、開けっぴろげで子供っぽいシューベルトの性格の違いから、同居は2年で解消しました。しかし、マイルホーファーの詩への付曲は計47曲となり、これはゲーテの詩への付曲74曲に次ぐ曲数です。

「フランツ・シューベルトに」と書かれていることから、シューベルトの音楽についてのマイルホーファーの気持ちや歌われた詩と推察されます。天啓のようなピアノの前奏で始まり、最後はまるでコラールの如く静かな感動で終わりますが、作曲したのがその称賛の的となっている本人だというところが面白いですね。そういえばどこことなく、「まあそれほどでもないけどね」という照れがあるように聞こえます。

Geheimnis an Franz Schubert

Johann Mayrhofer

秘密

フランツ・シューベルトに

マイルホーファー

Sag an, wer lehrt dich Lieder,
So schmeichelnd und so zart?
Sie rufen einen Himmel
Aus trüber Gegenwart.

言ってくれ、誰が君に歌を教えるのだ
あれほど快く あれほど優しい？
それらは天を呼んでいる
濁った現世から。

Erst lag das Land verschleiert
Im Nebel vor uns da -
Du singst, und Sonnen leuchten,
Und Frühling ist uns nah.

始めは地はヴェールに覆われていた
私たちの前の霧の中で
君が歌うと太陽の光が輝き
春が近づく。

Den schilfbekränzten Alten,
Der seine Urne gießt,
Erblickst du nicht,
Nur Wasser, wie's durch die Wiesen fließt.

葦の冠を付けた老人は
彼の骨壺を鑄造しているが
君はそれを見たりはしない
ただ草原を流れる水を見ているのだ。

So geht es auch dem Sänger,
Er singt, er staunt in sich;
Was still ein Gott bereitet,
Befremdet ihn wie dich.

それは歌人にとっても同様だ
彼は歌い、自身の中で驚く
一人の神が示すものは
彼をも君をも驚嘆させるからだ。

「喜怒哀楽を共にした小川の辺。流れは海に続くが、水はどこにも住処を見つけられない。」といったマイル
ホーファー独特の悲観主義が濃厚ですが、シューベルトの音楽は3節目をまた穏やかな流れの様子に
戻してしまいます。このあたりが二人の性格の違いでしょうか。

Am Strome Johann Mayrhofer **流れのほとり** マイルホーファー

Ist mir's doch, als sei mein Leben 私には人生が
An den schönen Strom gebunden; この美しい流れと結ばれているように思うのは
Hab' ich Frohes nicht an seinem Ufer, 喜びをその岸辺で感じ
Und Betrübtes hier empfunden? 悲しみもここで感じたからではないか？

Ja, du gleichst meiner Seele; そうだ、お前は私の心と同じく
Manchmal grün und glatt gestaltet, ときに緑で穏やかだが
Und zu Zeiten herrschen Stürme ときとして嵐が勝り
Schäumend, unruhvoll, gefaltet. 泡立ち苛立ち波を重ねる。

Fliessesst zu dem fernen Meere, お前が遠い海に流れても
Darfst allda nicht heimisch werden; そこを住処とできない
Mich drängt's auch in mildre Lande, より穏やかな土地に私を追いやってとしても
Finde nicht das Glück auf Erden. その地に幸せを見出すことはないのだ。

夜スミレはハナダイコンという植物で碧い小さな花々が夜に芳香を放つそうです。原詩の最後の Und die
Welt erreicht sie nicht.「世界はその花々を理解しない。」等の数行をシューベルトは作曲していません。
(こういうことはシューベルトではしばしば起こります。)神秘の花々が生暖かい夜気にずっと揺れています。

Nachtviolen Johann Mayrhofer **夜スミレ** マイルホーファー

Nachtviolen, Nachtviolen! 夜スミレ、夜スミレ
Dunkle Augen, seelenvolle, 濃くて心のこもった眼
Selig ist es, sich versenken 幸せだね、青いピロードの中に
In dem samtnen Blau. 身を埋めているのは。

Grüne Blätter streben freudig 緑の葉々が嬉しそうに伸び
Euch zu helfen, euch zu schmücken; 君たちを助け、飾りつけている
Doch ihr blicket ernst und schweigend しかし君たちは厳しく黙って
In die laue Frühlingsluft. 生ぬるい春の空気を見つめている。

Mit erhabnen Wehmutsstrahlen 崇高な憂いの光で
Trafet ihr mein treues Herz, 君たちは私の忠実な心を捉える
Und nun blüht in stummen Nächten そして黙りこくった夜に
Fort die heilige Verbindung. 聖なる結びつきを咲き続けるのだ。

前曲と同じく「夜」を描いた、おそらく1819年に書かれた詩。流れる大気を表すようなピアノの分三和音に乗せて一人の老人が自身の死の受容について歌うと、森が応えてゆきます。

Nachtstück

Johann Mayrhofer

夜曲

マイルホーファー

Wenn über Berge sich der Nebel breitet,
Und Luna mit Gewölken kämpft,
So nimmt der Alte seine Harfe, und schreitet,
Und singt waldeinwärts und gedämpft:

山に霧が広がり
月が雲と競う
老人は竖琴を取り歩み始め
森に向かって声を潜めて歌う。

“Du heilige Nacht:
Bald ist's vollbracht,
Bald schlaf ich ihn, den langen Schlummer,
Der mich erlöst von allem Kummer.”

「お前、聖なる夜よ
間もなく終わりが来る
間もなく私は長い眠りに入り
それは私を全ての苦しみから解放するのだ。」

Die grünen Bäume rauschen dann:
“Schlaf süß, du guter, alter Mann;”
Die Gräser lispeln wankend fort:
“Wir decken seinen Ruheort;”

すると緑の木々はざわめく
「安らかにお眠り、お前、良き老人よ。」
草むらは揺れてささやく
「私たちは彼の臥所を覆うよ。」

Und mancher liebe Vogel ruft:
“O laßt ihn ruhn in Rasengruft!”
Der Alte horcht, der Alte schweigt,
Der Tod hat sich zu ihm geneigt.

そしてたくさんの愛らしい鳥は鳴く
「おお、草の墓場に彼を憩わせよう。」
老人は聞き、老人は黙する
死が彼に傾いた。

ゼンの「幸福の世界」にも通じる若者の自由と反骨の精神が歌われます。大変男性的な曲ですが、ここは「全人間的」と捉えてお聴きください。若者が意気揚々と船を走らせる様子が描かれています。

Der Schiffer

Johann Mayrhofer

船乗り

マイルホーファー

Im Winde, im Sturme befahr ich den Fluß,
Die Kleider durchweicht der Regen im Guß;
Ich peitsche die Wellen mit mächtigem Schlag,
Erhoffend, erhoffend mir heiteren Tag.

風と嵐の中、流れを進む
雨で服はびしょ濡れだが
私は力を込めて波を漕ぐ
より良い日を夢見ながら。

Die Wellen, sie jagen das ächzende Schiff,
Es drohet der Strudel, es drohet das Riff.
Gesteine entkollern den felsigen Höh'n,
Und Tannen erseufzen wie Geistergestöhn.

波はよろめく舟を狙い撃ち
渦が襲い、岩礁が襲う。
岩山から石が転がり
もみの木が幽霊の溜息を放つ。

So mußte es kommen, ich hab es gewollt,
Ich hasse ein Leben behaglich entrollt;
Und schlängen die Wellen den ächzenden Kahn,
Ich priese doch immer die eigene Bahn.

そうでなくては、私が望んだのだ
並みの人生はまっぴらだ
波がよろめく舟に絡みつくが
私はしかし自分の道を讃えるのだ。

Drum tose des Wassers ohnmächtiger Zorn,
Dem Herzen entquillet ein seliger Born,
Die Nerven erfrischend - o himmlische Lust,
Dem Sturme zu trotzen mit männlicher Brust.

だから水の怒りが轟き
心の幸福の泉が湧き出でて
気持ちも新たに　ーおお天上の喜び
男の気概で嵐に向かうのだ。

Sonate für Klavier A-Dur D664
ピアノソナタ イ長調 D664

シューベルトは31年の短い生涯、それもモーツァルトなどとは違い、せいぜい15年くらいの創作期間に驚くほど多くの器楽作品を書きました。ピアノ・ソナタは完成されたものは11曲あり、中には30分をゆうに超える長大なものもありますが、このイ長調(同じ調性でもう一つ、晩年の大ソナタがあるのでこちらのほうは「小さいイ長調」と呼ばれます)は短く、よくまとまった作品です。全曲を通じて美しいメロディーの連続ですが、特に第2楽章の美しさは絶品で、終わり近くに現れる、長調と短調を微妙に行き来するひと節はシューベルトならではのものです。(長尾)

ショーバー(1796-1882)詩による歌曲

スウェーデン生まれのショーバーは母と妹とウィーンにやってきて、コンヴィクトで学びました。芸術愛好家のお坊ちゃまのショーバーでしたが、性格はなかなか一筋縄ではなく、シューベルトに対する敬愛のほどもシューベルトがショーバーを心から信頼していたそれとは違ったものがあります。しかし、家族との居宅の一室をシューベルトに提供し、そこがシューベルト・ティーアデの集会場所にもなったこと、宮廷歌手のフォークルにシューベルトを紹介し、そのことがシューベルトの声楽作品を世に知らしめ、後世に遺していくことに繋がった功績は計り知れません。

シューベルト・ティーアデの若者たちにとって音楽とは、「貴族趣味のお楽しみ」ではなく「より良い時代の空を開く」存在だったこと、そのことをシューベルトの音楽が彼らに感じさせてくれたはずです。
大都市ウィーンに揉まれて暮らしながら、深い憧れに満ちたシューベルトの音楽で心を潤している彼らの様子が見えてきます。

An die Musik	Franz Schober	楽に寄せて	ショーバー
Du holde Kunst, in wieviel grauen Stunden, Wo mich des Lebens wilder Kreis umstrickt, Hast du mein Herz zu warmer Lieb entzunden, Hast mich in eine beßre Welt entrückt!		優しい芸術よ 多くの味気ない時間に 荒々しい環が私を取り囲んでいるときに 君は私の心に温かな愛を灯し 私をより良い世界に近づけた!	
Oft hat ein Seufzer, deiner Harf' entflossen, Ein süßer, heiliger Akkord von dir Den Himmel beßrer Zeiten mir erschlossen, Du holde Kunst, ich danke dir dafür!		しばしば溜息が君の琴から流れ出て 甘聖なる君の和音が より良い時代の空を僕に開いた 君、優しい芸術よ、私は感謝する!	

この曲は一転して再び、自己実現に邁進する若者の気概を描いています。お宝を見つけるべく地下を掘り続ける若者を世間が嘲笑するならば、自分は自分の墓を掘っているのだからつべこべ言うなと息巻いています。固い地面を掘り下げていくようなピアノの低音のオクターヴが特徴的です。

Schatzgräbers Begehr

Franz Schober

宝掘りの欲望

ショーバー

In tiefster Erde ruht ein alt Gesetz,
Dem treibt's mich rastlos immer nachzuspüren;
Und grabend kann ich Andres nicht vollführen.
Wohl spannt auch mir die Welt ihr goldnes Netz,

深い地底には古い掟がある
それが私を常に惹きつけるのだ
そして掘りながら他のことは考えられないのだ。
この世界が私に金網を張ろうとも

Wohl tönt auch mir der Klugheit seicht Geschwätz:
Du wirst die Müh und Zeit umsonst verlieren!
Das soll mich nicht in meiner Arbeit irren,
Ich grabe glühend fort, so nun, wie stets.

識者のくだらないお喋りが聞こえても
「お前は労苦と時間を無駄にしているぞ」と！
それは私の仕事を妨げたりしない
私は一心に掘り続ける、今も、ずっと。

Und soll mich nie des Findens Wonne laben,
Sollt' ich mein Grab mit dieser Hoffnung graben,
Ich steige gern hinab,
gestillt ist dann mein Sehnen.

そして発見の喜びがなかったならば
希望を持って自分の墓を掘るのだ
私は喜んで降下しよう、それで私の憧れが
鎮まるのだ。

Drum lasset Ruhe mir in meinem Streben,
Ein Grab mag man wohl jedem gerne geben,

だから私の努力を放っておいてくれ
それぞれに墓はひとつあるだろう

Wollt ihr es denn nicht mir, ihr Lieben, gönnen?
君らはそれを私に許さないというのか
愛すべき人々よ？

昨年のシューベルトの演奏会でも最終曲はシラーの詩による長編バラード「期待」D159を演奏しましたが、今回も長い歌曲を1曲紹介します。オペラを書きたくて何度も挑戦をして不作に終わったシューベルトへのオマージュとして演奏しているつもりです。歌曲はたった3-4分の音楽の中で完結していく小宇宙ですが、それが10分以上となると、作曲をするのには別のテクニックが必要だったのでしょう。

タイトルはヴィオラですが、これは待雪草のことです。冬の終わりに真っ先に球根から芽を出し白い可憐な花を咲かせる待雪草は、ときとして遅霜や雪で空しく押しつぶされてしまいます。その様子を詩人たちは時期を間違えて生まれてしまった哀れで美しい者として捉え、しばしばこの待雪草をテーマにした詩を書いています。このショーバーの詩では、待雪草は春一番に咲いて花婿(春)を探しますが、見つけられずに一人死んでゆきます。

Viola

Franz Schober

スミレ

ショーバー

Schneeglöcklein, o Schneeglöcklein,
In den Auen läutest du,
Läutest in dem stillen Hain,
Läute immer, läute zu, läute immer zu!

待雪草よ、待雪草
牧場に鈴を鳴らしているね
静かな森で鳴っているね
もっと鳴らせ、もっと鳴らせ！

Denn du kündest frohe Zeit,
Frühling naht, der Bräutigam,
Kommt mit Sieg vom Winterstreit,
Dem er seine Eiswehr nahm.

君は喜びの時を告げるのだから
春が来る、花婿が
冬の戦いに勝ってやってくる
冬の武器を奪って。

Darum schwingt der goldne Stift,
Daß dein Silberhelm erschallt,
Und dein liebliches Gedüft
Leis' wie Schmeichelruf entwallt:

だから君は金色の茎を揺らして
銀の兜を輝かせて
そして君の優しい匂いが
誘い声のように静かに沸き立つのだ

Daß die Blumen in der Erd'
Steigen aus dem düstern Nest,
Und des Bräutigams sich wert
Schmücken zu dem Hochzeitsfest.

花々が地面の中で
暗い営巣から立ち上がり
花婿のために
結婚式の化粧をするのだ、と。

Schneeglöcklein, o Schneeglöcklein,
In den Auen läutest du,
Läutest in dem stillen Hain,
Läut' die Blumen aus der Ruh'!

待雪草よ、待雪草
牧場で君は鳴っている
静かな森で鳴っている
花々を起こして鳴ってくれ！

Du Viola, zartes Kind,
Hörst zuerst den Wonnelauf,
Und sie stehet auf geschwind,
Schmücket sorglich sich als Braut.

Hüllet sich in's grüne Kleid,
Nimmt den Mantel sammetblau,
Nimmt das güldene Geschmeid,
Und den Brilliantentau.

Eilt dann fort mit mächt'gem Schritt,
Nur den Freund im treuen Sinn,
Ganz von Liebesglück durchglüht,
Sieht nicht her und sieht nicht hin.

Doch ein ängstliches Gefühl
Ihre kleine Brust durchwallt,
Denn es ist noch rings so still,
Und die Lüfte weh'n so kalt.

Und sie hemmt den schnellen Lauf,
Schon bestrahlt von Sonnenschein,
Doch mit Schrecken blickt sie auf,
Denn sie stehet ganz allein.

Schwestern nicht, nicht Bräutigam,
Zugedrungen! und verschmäht!
Da durchschauert sie die Scham,
Fliehet wie vom Sturm geweht.

Fliehet an den fernsten Ort,
Wo sie Gras und Schatten deckt,
Späht und lauschet immerfort,
Ob was rauschet und sich regt.

Und gekränket und getäuscht
Sitzet sie und schluchzt und weint,
Von der tiefsten Angst zerfleischt,
Ob kein Nahender erscheint.
Schneeglöcklein, o Schneeglöcklein,
In den Auen läutest du,
Läutest in dem stillen Hain,
Läut die Schwestern ihr herzu!

スマイレ、優しい子
君はまず喜びの音を聴き
そして素早く立ち上がり
花嫁の飾りを整える。

緑の衣裳を纏い
ベルベットの青いマントを羽織り
金の飾りと
輝く露を身に着ける。

そして力強い足取りで急ぐのだ
誠の恋人だけのために
愛の幸せに燃えて
わき目もふらずに。

しかし、一つの懸念が
彼女の小さな胸によぎる
なぜなら周りがあまりに静かで
とても冷たい風が吹いているから。

それで彼女は足取りを緩める
太陽は既に照っているが
彼女は驚いて見上げる
彼女はたった一人で立っているのだ。

妹も、花婿もいなくて
急ぎ過ぎたのだ、侮られたのだ！
彼女は恥じて震え
嵐に吹かれるように逃げる。

安全な場所に逃げる
草陰が覆っているところへ
永い間覗き見て聞いている
何かが動くかどうかを。

そして傷つき失望して
座り込み泣きじゃくる
深い深い不安に苛まるのだ
誰も近づかないのかと。
待雪草よ、待雪草
牧場に鈴を鳴らしているね
静かな森でなっているね
妹たちに聞こえるように！

Rose naht, Lilie schwankt,
Tulp' und Hyazinthe schwellt,
Windling kommt daher gerankt,
Und Narciss' hat sich gesellt.

Da der Frühling nun erscheint,
Und das frohe Fest beginnt,
Sieht er alle, die vereint,
Und vermißt sein liebstes Kind.

Alle schickt er suchend fort,
Um die eine, die ihm wert,
Und sie kommen an den Ort,
Wo sie einsam sich verzehrt.

Doch es sitzt das liebe Kind
Stumm und bleich, das Haupt gebückt,
Ach! der Lieb' und Sehnsucht Schmerz
Hat die Zärtliche erdrückt.

Schneeglöcklein, o Schneeglöcklein,
In den Auen läutest du,
Läutest in dem stillen Hain,
Läut Viola sanfte Ruh'.

バラが近づき、ユリが揺れ
チューリップとヒアシンスが揺れる
ヒルガオがそこへ続き
スイセンが加わる。

今、春が現れて
嬉しい祭りが始まる
春は集まった皆を見たが
彼の恋人がいない。

彼は皆を探しにやる
大切な女性を探しに
そして彼らはある場所に来ると
彼女が一人で萎れているのだ。

その可愛い子は座り
黙して青ざめ、首を垂れている
ああ、愛と憧れの痛みが
か弱い子を押しつぶしたのだ。

待雪草よ、待雪草
牧場に鈴を鳴らしているね
静かな森でなっているね
スマレよ、安らかな眠りを。

Abschied

Franz Schubert

別れ

シューベルト

Lebe wohl, du lieber Feund!
Ziehe hin in fernes Land,
Nimm der Freundschaft trautes Band,
Und bewahr's in treuer Hand!
Lebe wohl, du lieber Feund!

さよなら、親愛な友よ！
遠くの国へ行くなれば
信頼の絆の友情を持っていってくれ
そして忠実な手の中に温めていってくれ
さよなら、親愛な友よ！

Lebe wohl, du lieber Freund!
Hör'in diesem Trautersang
Meines Herzens innern Drang,
Tönt er doch so dumpf und bang!
Lebe wohl, du lieber Feund!

さよなら、親愛な友よ！
この悲しみの歌の中に
僕の心の高まりを聞いてくれ
それは鈍く心細く鳴っているだろう！
さよなら、親愛な友よ！